

平成30年度国立大学図書館協会海外派遣事業報告

オランダの大学図書館における オープンアクセス支援について

一橋大学附属図書館 尾城友視

ojiro.tomomi@dm.hit-u.ac.jp

2019. 12. 5 東京学芸大学SD研修

@東京学芸大学附属図書館



一橋大学
HITOTSUBASHI UNIVERSITY

自己紹介

- **コンテンツ係** 2011.08 - 2014.03
 - 機関リポジトリ、ウェブサイト等
- **総務部広報室** 2014.04 - 2016.12
 - 学内人事交流
 - 広報誌、ウェブサイト等
- **レファレンス係** 2017.01 -
 - ILL、レファレンス、情報リテラシー教育
 - **国大図協海外派遣事業でオランダへ** 2018.11

背景：オランダのOA政策①

2020年までに 100% OA

- 公的助成を受けた研究成果を誰でも見られるように…
- **ゴールド**路線（公表・出版時にOA化）



教育・文化・科学省
サンダー・デッカー副大臣
(2012年～2017年)

2013年に100% OAを提言
当時38歳

The switch to the golden road

My preference is “golden” open access; in other words, publication in journals that make research articles available online free of charge. My aim is for the Netherlands to have switched entirely to the golden road to open access within ten years, in other words by 2024. In order to achieve this, at least 60 per cent of all articles will have to be available in open access journals in five years’ time.

Open access is already customary in some disciplines, but others make little or no use of it. A number of disciplines have only a small number of open access journals in their field. In other disciplines, books are the customary method of publishing new research results and findings. This means that the targets I am setting are quite ambitious.

Dekker, Sander. Open Access to publications.

Government of the Netherland, 2014-01-21.

[https://www.government.nl/documents/parliamentarydocuments/2014/01/21/open-access-to-publications.](https://www.government.nl/documents/parliamentarydocuments/2014/01/21/open-access-to-publications)

背景：オランダのOA政策②

オランダ大学協会（VSNU）主導の出版社交渉

- 学長も交渉のテーブルに着く
- 購読モデルに基づくビッグ・ディール
 - 購読料と**OA出版費用**を組合せたオフセット契約
Read & Publishモデルへ
OA2020の方向性とも合致

交渉主体は
14大学で一つ！

現在の状況

- 16の大手学術出版社と契約締結（2019年11月現在）
- 契約条件は各社で異なる

<https://www.openaccess.nl/en/in-the-netherlands/publisher-deals>

背景：オランダのOA政策③

論文のOA率の推移

2014年	20%
2016年	42%
2017年	50%
2018年	54%



年々増加傾向
OA論文数も増加

<https://www.openaccess.nl/en/in-the-netherlands/monitor>

調査内容

《興味》 研究者への支援は？ 図書館の役割？
出版社交渉以外の取組みは？

大学図書館に焦点を絞って…

- ① 大学図書館がOA推進にどう関わっているか？
- ② どのようなOA支援体制があるのか？
- ③ ゴールドOA以外の方策は？

関係者へのインタビュー調査を実施

調査日程・訪問先

日程	訪問先	対応者
11/12	ユトレヒト大学	Mr. Jeroen Bosman (Subject Librarian) Mr. Jeroen Sondervan (Publishing Consultant)
11/14	オランダ大学協会 (VSNU)	Ms. Wilma van Wezenbeek (Project Leader of OA, Director of TU Delft Library)
11/15	ティルブルフ大学	Mr. Hylke Annema (Head of Department, Division Library and IT Services) Dr. Koen Becking (President of the Executive Board)

ユトレヒト大学



Universiteit Utrecht

学生数	約31,000人
教職員数	約6,500人
学部 Faculties	地球科学／人文学／法・経済・政治学／ 医学／科学／社会・行動科学／獣医学 → 大規模総合大学
ランキング THE-W 2019	国内6位／世界74位
設立	1636年

ユトレヒト大学図書館



ユトレヒト大学のポリシー

2016	Strategic Plan 2016-2020 → オープンサイエンスの推進
2018	Open Science Programme 2018-2021 → 具体的なプラン（OAも重要事項）
2018	Strategic Plan Utrecht University Library 2018-2020 → 図書館の戦略プラン（OA、データ管理）

What does the Library do for you?

You

- Publish
- Teach
- Archive
- Disseminate

The library

- Provides educational support
- Gives advice about impact, Open Access and legal questions
- Provides archiving facilities

You

- Gather information
- Assess information
- Study
- Meet peers
- Exchange ideas

The library

- Offers study space
- Trains information literacy skills
- Provides online and offline collaboration environments
- Organises metadata
- Offers an accessible library collection
- Helps you find information

You

- Generate data
- Analyse data
- Write

The library

- Provides data management support
- Offers data storage advice



The Scholarly Communication Cycle

<https://www.uu.nl/en/university-library/about-the-library/policies-and-mission-statement>

ユトレヒト大学図書館のOA支援

支援内容

- OA出版に関する情報提供
- **OAファンド**
- 機関リポジトリ
- **ジャーナル出版サービス**

体制

- サブジェクトライブラリアンが各分野をフォロー
- 一部のサービスは数名のチーム制

OAファンド

- OA出版費用（APC / BPC）助成制度
- オランダ大学協会の出版社契約を補填
- 2012年開始

主な要件

- ユトレヒト大学の研究者が責任著者であること
- OA出版物であること
- 公表先はDOAJ、DOABの要件を満たすこと

助成内容

- OA出版費用に対して最大で50%の返金

OAファンドの利用実績

	2014	2015	2016	2017	2018
支出額 [€]	53,906	52,486	93,686	96,885	115,734
申請数 [件]	89	68	117	108	132

(ユトレヒト大学図書館提供)

Uopen Journals ①

<https://www.uopenjournals.org/site/journals/>

- OAジャーナル出版プラットフォームサービス
- 大学出版会とは異なる

Igitur (2003年開始)



- 10年間で23ジャーナル
 - コスト増加
 - システム管理者??

Uopen Journals (2014年リニューアル)

- 出版のパートナーであることを目指す
- 質の高い査読付きOAジャーナルを育成
 - 「**インキュベーター・モデル**」

Uopen Journals ②

インキュベーター・モデル (“保育器”モデル)

- 創刊から6年以内に財政的にも「独り立ち」
- 出版の全行程を支援・コンサルティング
- 現在14誌が保育期間中

<財政モデル>

- APCモデル：1誌
- ダイヤモンドOA：13誌（学会や関係機関が費用負担）

2019年11月現在確認できるのは10誌
「独り立ち」完了か？

<体制>

- チーム 3名
- 出版社やウェブ、マーケティングの経験あり

ティルブルフ大学



学生数	約14,000人
教職員数	約2,000人
学部 Schools	経済・経営学／法学／社会・行動科学／ 人文・デジタル科学／神学 → 中規模人文・社会系大学
ランキング THE-W 2019	国内13位／世界201-250位 ※分野別ランキングでは上位
設立	1927年

テイルブルフ大学図書館



ティルブルフ大学のポリシー

2016	OAポリシー
2017	Strategy Tilburg University 2018-2021 → オープンサイエンスの推進
2018	Action Plan for Open Science → 具体的な実現プラン

ティルブルフ大学のOAポリシー

OAポリシーの制定（2016年）

- ① 研究成果を機関リポジトリに登録する（≠義務）
- ② **合理的な判断によりOAジャーナルに投稿する**
- ③ ハイブリッドOAよりフルOAが望ましい
- ④ 図書館がOA及び著作権についてサポートする

②の付記事項

- OA出版が若手研究者のキャリア展望を傷つけてはならない。このため、OAジャーナルへの投稿は不可避の義務ではない。
- ティルブルフ大学やVSNUがOA合意に達した出版社のジャーナルで（OA）出版することで、出版コストが節約できる。
- OAそれ自体は、ジャーナルの品質や、用いられている質保証の方法（ピア・レビュー等）とは関係がない。

 **かなり慎重な印象**

ティルブルフ大学のOA

ティルブルフ大学のOA率：39%（2017年）

- オランダ全体：50% → やや乖離がある？

人文・社会系の難しさ：選択肢の少なさ

オランダであっても…

- 「OAに対する研究者の理解を得ることは難しい」
- 「分野によって関心度は異なる」



図書館からオープンサイエンスのアクションプランを提案。学内のコンペを経て、全学プランとして採用！

Action Plan for Open Science

1. オープンサイエンス・ラボ

- **ジャーナル出版**
- 学術書のオープン化
- 教材のオープン化
- **ティルブルフ大学プレプリント**

学内の
パイロット
プロジェクト

2. OAファンドの設立

3. オープンサイエンスに関するスキルの向上

4. オープンサイエンスネットワークの形成

2018年9月～始動（訪問時はプラン段階）

ジャーナル出版

- ティルブルフ大学の研究者によるOA誌創刊
- 知財系の研究者と連携し、プロジェクト進行中

→ **2019年5月創刊**

“Technology and Regulation”

特徴／ねらい

- ダイヤモンドOAを採用（著者／読者コスト負担ゼロ）
- 同分野の商業ジャーナルとの競合を目指す
- 同分野の研究者にOAの選択肢を持ってもらう

ティルブルフ大学プレプリント

現時点での（プランに書かれていない）構想

- 主題別リポジトリに登録されたプレプリント
 - 研究者「OA済（機関リポジトリには登録しない）」
 - 大学の研究成果として集約したい
- DOIを使って研究業績や機関リポジトリのメタデータと繋がられないか？



- 研究者の行動は変えずに「見せる」仕組みを作る

オランダ大学協会 (VSNU)

- 国内14の研究大学から成る大学協会

Roadmap open access 2018-2020 (2018年)

- 国の方針を受けて作成されたロードマップ
- 出版社との交渉以外にも様々な取組み



The Five Pillars of Open Access

⑤ 新たな出版プラットフォーム

商業出版社による
学術雑誌以外の
プラットフォーム

④ モニター

毎年のOA達成率の
チェック



① 出版社交渉

② 国際連携

EU政府との団結
他国と情報交換

③ アーカイブ

グリーンのアプローチ
最大の障壁 = 著作権

→ 2015年7月著作権法改正

You share, we take care!

'Use your right to share publications after six months.
The university library will help you out.'

Can the article be published in an open access journal? **Yes** Publish it with a cc-by license. The article will be available to all for free!


No

Share the publication via the institution's repository.

Complicated and slow? Not any more!

An amendment to the Dutch Copyright Act has made it much easier to share publications quickly. Please participate! Then the library will share the published version after six months, even if the embargo period is longer, or you are a co-author, or your publication was published by an international publisher.

Would you like to know more?
For more information and the conditions, please visit www.openaccess.nl

 openaccess.nl



- 2019年1月～
- 機関リポジトリへの登録を推進するパイロットプロジェクト
- 公表から6ヶ月を経過した論文やチャプターを機関リポジトリに登録しよう！
- 学長が率先して登録キャンペーン中

その他の課題

- 助成団体との連携
- 研究評価のあり方
- データ管理

オランダの強み

コンパクトな規模感

- 14大学で一つの交渉主体を作れる！
- 学長全員が集まって意思決定ができる！

政府、EUとのつながり

- 交渉の強い武器になる！

関係者の密なコミュニケーション

- 図書館関係者が蓄積してきた知識・経験が政策にフィードバックされている
- Twitter上で日々議論、情報共有

まとめ①

オランダ

- 国全体で強力なゴールドOAポリシーが機能
- 大学図書館が中心となって研究者支援
- 分野間のばらつきはあるが、それぞれの大学で必要なサービスを考え、取組みが進んでいる



日本でもOA出版モデルへの転換が進めば、どのような支援体制が必要になるか考える上でのモデルケースとなるのではないか。

まとめ②

研究支援全般について

- 機関リポジトリ：研究発信の領域に機能を拡張
 - 研究成果を研究者自身 or 大学が自ら発信、管理、保持
 - 基本的には「**アーカイブ**」の意味合いが強い？
- オランダ（ユトレヒト、ティルブルフ）
 - 研究成果の公表・出版（**パブリッシュ**）の段階に対して図書館が支援
 - 必ずしも基盤を提供するだけではない
 - 最新の国際動向等を正しく情報提供することの重要性

報告書

尾城友視. **オランダの大学図書館におけるオープンアクセス支援**. 大学図書館研究. 2019, 111, <https://doi.org/10.20722/jcul.2034>.

本日の内容は
上記報告書からの抜粋
+ アップデート情報
+ 私見です

